

ロシア語はどこがむずかしいのか？

堤 正 典

私はロシア語学を専攻し、ロシア語文法を研究対象としている。また、授業では、ロシア語を教えている（言語以外のロシアや東欧（中欧）に関する諸々の話もするが、厳密には専門分野とは言えない）。ロシア語をやっていると、「珍しいですね」とか、「むずかしいでしょう」と言われることがある。日本の人口をはるかに超える話し手を有し、国連の公用語でもあるこの言語に日本でかかわっている人は、研究者だけでも相当数いるし、もっと少数の人がかかわるだけの言語もたくさんあることを知っているのだから、私自身は珍しいとは思わない。しかし、平均的な日本人の感覚では珍しいのかもしれない。

むずかしいかどうかについては、勿論むずかしいとは思わない。しかし、他の言語に比べてむずかしいとかというと、一概に比較できない。

日本人が外国語として学ぶにはどの言語にもそれなりのむずかしさがあるものである。ただし、いくつかの部分に分けてみると多少のことは言うことができる。ロシア語は日本人にとってどこがむずかしいのだろうか。

ロシア語の発音で、個々の音は、子音のいくつかを除いてそうむずかしくはない。英語と比べても、子音はやさしいか、せいぜい同じくらいむずかしいかであり、母音はロシア語の方がはるかに簡単である。語のアクセントも発音の面からは大変なことはない。それに対して、文におけるイントネーションは多少の練習がいる。疑問文であることをイントネーションだけで示す場合があり、これについては耳と口の慣れが必要である。

文字は、ラテン文字にないものや、あっても英語などとは表す音が異なる文字があつて、大変だ

と思われるようである。だが、文字というものは本来習わなければ読めないものである。音声言語と異なり、このことは母語話者であってもそうなのである。ロシア語の文字数33はそんなに多い方ではない（大文字・小文字があるが、大きさが違うだけのものも多い）。読み方はきわめて規則的である。ただ、実際に文字をすらすら読むには、結局どの言語であっても単語をたくさん知ることが必要である。

語彙、すなわち単語については、それなりの数を覚えなければならないのはどの言語も同じである。それでも、英語などは外来語として日本語に入ってきている語が多いので、その分有利であろうか（その中には実際の英語の使い方と違うものもあるから、かえって紛らわしい場合もある）。

学習者を一番悩ませるのは文法であろう。文法は大きく分けて、語形変化をあつかう形態論と語による文の成り立ちをあつかう構文論（統語論）とに分かれる。ロシア語の教科書で中心となる文法項目は形態論であり、変化表がたくさんでくる。ロシア語は、正しい変化形を組み合わせる用いることが主たる構文論上の規則であるから、語

形変化を覚えれば文法上はなんとかなる言語である（それ以外に構文論上の規則がないわけではない）。語形変化を覚えるというのは、単に変化のしかた（語尾）を覚えるだけでなく、いかなる変化形があり、いかなる場合に変化するのも覚えることが必要になる。したがって、変化形が多ければ多いほど変化する場合分けも多くなり、個々の変化語尾とあわせてさらなる記憶の負担となる。形態論が複雑な言語はいくらであるが、やはりロシア語におけるこの負担は小さくはない。しかし、語形変化が多いというのにも利点があって、それを身につけてしまえば文の係り受け関係が誤解のしようがないほどよくわかることになる。

中学から学ぶ英語とは異なり、通例大学以降で始めるロシア語および他の言語は、授業の進み方もより速く、より短い期間で一定のレベルに到達することが要求される。勉強する時間が同じならば、ロシア語のように文法に負担がかかると語彙数にしろよせがいくことになる。文法や語彙の効率のよい理解と記憶には、学習者の努力とともに、優れた教材を用いることを含めて教師の役割が大きいのである。